

養蚕の教

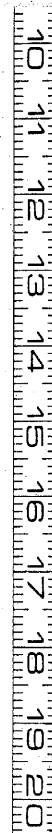
1880年1月

養蠶の教

勵業標母久連

養蠶の教

L630
フ
・



船津傳次平著

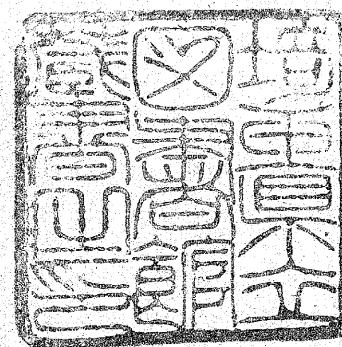
養蠶の教

勸業母久連

序

維新以降百工技藝競爭進歩せる中より東國の養蠶術の若きハ頗改正せるか如くと雖も未だ僅に一步を進みたるものみにて奥信の次に位するを免られず豈遺憾の極に非や抑我武藏地方ハ涼暖度に適せる故に火力を用ひ及四方無壁の室より非ざるを從來養蠶製糸に名あり實に天地相應の產物にて之に人の精力を加ふる時ハ其成功の大なる事知るヘト然れハ殊に心を用ひざるべからん而して製糸ハ已に進良の勢ひありと雖ども養蠶に至りてハ舊株を墨守して正説を信せず舊習の弊害を悟らず固に毎家の資産よりて國産の冠たるをも顧みず纖微毫末の小利に迷へる徒を見る毎に嘆

序



7310

息を極め聊諭言を草せるも事務の繁劇なるに其意を
果とす徒に苦慮して光陰を送りしより頃自船津氏の嘗
て著述せらるし養蠶の教一名勸業榜母久連といふ小
一冊を上毛なる星野氏より遞送せられしを見るに其
言簡易にして且つ深切事に裨益ある實に至れり盡せ
り今更に何をか云ひむ因て是を活版に付し普く世に
施さんじす觀者冀くハ船津氏の篤志と予乃微志どを
棄抛せず其指示する所に謹勉從事して巨大ふ之を海
外に輸出し國家の富を成して共々人民の本分を盡
し併て最良上品の名譽を天下に得て本業の榮せん
とを

明治十三年一月

廣瀬 清水宗徳述

- ヤレ^く曾様 ○ 貧乏^{ひんぱう}ガイヤナラ ○ 赤城^{あかぎ}ノ麓^{あち}ノ
我等^{われ}ガ云事 ○ 能^のタ聞給^きヘヨ ○ 鎮守^{ちんし}ノ御前^{ごぜん}ノ
小教院ニテ ○ 榆母久連申スハ ○ 失敵^{しちか}至極^{じき}ノ
事ニハアレドモ ○ 是迄農事^{のうじ}ノ ○ 種物撰^{しゆぶつ}ミヤ
土質^{どしつ}ノ性辨^{せいべん} ○ 肥糞^{ひふ}ノ功能^{のうのう} ○ 季節^{じせき}ノ適當^{だつとう}
風雨^{ふうい}ノ考^かヘ ○ 田畠^{たばた}ノ手入ヤ ○ 飼餉^{くいき}ノ防法^{ぼうほう}
右等^{うとう}ノ咄^のシテ ○ 月々シマスガ ○ 真面目^{まめめ}ノコ^コハ
罷^{ひき}ノ御下手^{おろ}テ ○ 上手^{じょうし}ニ直^{ただ}シテ ○ チヨンガレ申スハ
得サセル積^のリテ ○ 達ルハ明治^{めいじ}ノ ○ 八年四月^{はちねんよんげつ}ノ
二十ト六日 ○ ソモ^く蠶^{てん}テ ○ 金銀澤山

不便ノコナリ
順序チ申セバ
煤掃ナサレテ
定規ト見コンテ
所ニ提置
申スニ及ハズ
不足ノナキヨコ
然ルニ心得
不成就日ニハ

○ソコトヲヘキツケロ
○八十夜ノ
○牡丹ヤキリンマ
○霜ヨリ取ダシ
○寒冷温暖
○時節チ外サズ
○諸品ナ調ヘ
○二階モ道具モ
○掃立ナサルガ
○クエ日黒日ガ
○障リトナツタノ
○午ノ日撰ムガ
○荒糠ナシアハ

心得ナルトハ
火力チ用井シ
暖地ノ種ダカ
平地ノ種ダカ
届イタ種ダカ
合セノ種ダカ
砂地カ真地カ
各地ノ風土チ
無キ種見込デ
手入ノ届カヌ
○ソコトヲヘキツケロ
○八十夜ノ
○牡丹ヤキリンマ
○霜ヨリ取ダシ
○寒冷温暖
○時節チ外サズ
○諸品ナ調ヘ
○二階モ道具モ
○掃立ナサルガ
○クエ日黒日ガ
○障リトナツタノ
○午ノ日撰ムガ
○荒糠ナシアハ

○心得ナルノガ
○天理ニ任セシ
○蠶飼ノ種ダカ
○谷間ノ種ダカ
○風穴種ダカ
○川邊ノ陰カ
○乾地カ温地力
○掃立ナサルガ
○考ヘ合セテ
○掃立ナサルガ
○手入ノ不足ノ
○右等ニ氣ヲ閉ケ
○専一ナルベシ
○愚種抔ヤ
○愚ナ人等ハ

○ 心ニ念シテ	○ 假ナル時ニハ	○ 其時必ズ	○ 参詣ナサレテ	○ 御神モ御宮ニ	○ 來リテ御守護ヲ
○ 困ヒ授クル	○ 幸ヒタ事ニハ	○ 福井給ヘハ	○ 道理ニアラズヤ	○ 礼服衣服モ	○ 倒キサヘスリヤ
○ 女ガ蠶飼チ	○ 酒食ニ溺レテ	○ 蠶飼ノ御神ガ	○ 十大ベキモノヅト	○ 宽ヒ除キテ	○ 御惠アルベシ
○ 家業ノ傍ナル	○ 憎風學者ノ	○ 女ノ故ニヤ	○ マダアル	○ 災ヒ除キテ	○ 成サル、事故
○ 此等ノ事ニハ	○ 蠶飼チ知ラザル	○ 思テ居フクリ	○ マダアル	○ ヨイノチ用井テ	○ 御惠アルベシ
○ 御聞セ申スヨ	○ 淚チ溢ヌテ	○ 風儀ナ見ルヨニ	○ ヨイノチ用井テ	○ 宽ヒ除キテ	○ 御惠アルベシ
○ 憎又掃立	○ 主人ガアツタリ	○ 主人ガアツタリ	○ ヨイノチ用井テ	○ 宽ヒ除キテ	○ 成サル、事故

新精しんせい ナスルノヤヤ
 日ひ 待まち ト唱さう ヘテ
 トモシ火ひトモシテ
 八十八夜やノ
 社やしろ 日ひ 参まつり モ
 蠶種だね ノ青あおム
 ナンゾト名な付つけケ
 御神みわらわ ナ頼のぶムモ
 忙シキ時分じハ
 御方おがたノ御宅おうちナ
 トモ知しラヌニ
 フノ頼のぶムノ
 ○ 留主るそナル社やしろヘ
 ○ ナンゾト云いモナ
 ○ 気違きたがヒ同どう然ぜん
 トマダトマダ 障さへリガ
 ○ 蠶種だね提さげ置おきモ
 ○ 乾ガスナソヅモ
 ○ 時分じふニ至いたリテ
 ○ 蠶だねニサハル
 ○ 息ひときモツカズニ
 ○ ソココそこ、歩行あるきテ
 ○ 正直正路おおきニ
 ○ 巡回じゆんナサレテ
 ○ 無益むえきノフタヨ
 ○ 神々様じんじんさまハヨ
 ○ ヨイ蛹取よしわとりルヨ
 ○ 職業じょぎょう精ひそダス
 ○ 坐まつハナサレズ
 ○ 參詣致さんけいシテ
 ○ 是これ又障またさへリヨ
 ○ 側わきナンゾヲ
 ○ 潤山じみやまアリ升のぼ
 ○ 大師だいし參まつりリヤ

此等	ガ初メノ	少シノ桑モテ	度々アタヘヨ
乾キテ暑ケリヤ	時候ノ暑キニ	休ミノ心得	堵又蠶裏ガシ
空氣ノタヘリヤ	○桑ノ不足モ	○フシツ蠶起ルヨ	乾キテ暑キニ
拔ルガ過ルモ	○多クハ提灯	○コシヤリト成マス	○温ルモ冷ルモ
カビレバ提灯	○乾ケバフシツコ	○空氣ノ拔スモ	○空氣ノ蠶裏ガ
見工升者ナリ	○蠶裏ノ加減ハ	○休ノ蠶裏ガ	○大慨後日ニ
云トコ極本	○青タ蠶種チ	○吸頃烟岬ト	○吸頃烟岬ト
回シタナンアハ	○休ミテ起テモ	○涼キ所ヘ	○涼キ所ヘ
右等ニ氣ナッケ	○黒ミノ抜ナイ	○桑ヒナサレヨ	○桑付仕様ト
病ガイズマス	○休ミテ起テモ	○桑ヒナサレヨ	○桑付仕様ト
休ミノノ	○休ミテ起テモ	○桑ヒナサレヨ	○桑付仕様ト

マブシノ所ハ
 ○後日ニ述マス
 ○紙トセ種トモ
 ○五万ト五千ノ
 ○種粒アリ升
 ○五万ト五千ガ
 ○凡ノ積リガ
 ○ヨイ蛹造レバ
 ○積リニカツヘテ
 ○然ルチ見ナサヘ
 ○壹升大凡
 ○壹升九斗ト
 ○六升四合ニ
 ○二百ト八拾
 ○手入ノ届力ス
 ○五石力六石
 ○當ルト雖モ
 ○厚飼シナサル
 ○桑サヘ有ルナラ
 ○手入ガ届キテ
 ○鐵炮ナシヅヤ
 ○羈取者トハ
 ○外ルナシヅノ
 ○桑ノ葉費ヤシ
 ○詫ルガヨ力ロウ
 ○道橋普請ヤ
 ○天ノ御神ニ
 ○天ノ運ダノ
 ○詫ルト申シテ
 ○學校資本ヤ
 ○夫トモ知ラズニ
 ○其身ノ運ダノ
 ○良キ繭取タル
 ○泥ソブ居ナサル
 ○眼玉ノ出ル程
 ○功者コナックラ
 ○聞カザル人迄
 ○纏ヒ飼ノ仕方ガ
 ○右等ノ敷ヘコ
 ○ナシヅト唱ヘテ
 ○昔ハドツサリ
 ○病氣ハ無ツタ
 ○厚飼ナシヅモ
 ○社堂ノ寄附等
 ○外デハゴザラヌ
 ○罰金差上
 ○國損釀セシ
 ○國損釀セシ
 ○外ルニ過ク
 ○千兩ノ黃金ナ
 ○受ルモ同前
 ○必裸致シテ
 ○一方ニ
 ○馬鹿ナル者ラガ
 ○其理モ知ラズニ
 ○病氣ハ無ツタ
 ○厚飼ナシヅモ
 ○社堂ノ寄附等
 ○外デハゴザラヌ
 ○罰金差上
 ○國損釀セシ
 ○國損釀セシ
 ○外ルニ過ク
 ○千兩ノ黃金ナ

○猪又原紙ハ
 ○紙トセ種トモ
 ○五万ト五千ノ
 ○種粒アリ升
 ○五万ト五千ガ
 ○凡ノ積リガ
 ○ヨイ蛹造レバ
 ○積リニカツヘテ
 ○然ルチ見ナサヘ
 ○壹升大凡
 ○壹升九斗ト
 ○六升四合ニ
 ○二百ト八拾
 ○手入ノ届力ス
 ○五石力六石
 ○當ルト雖モ
 ○厚飼シナサル
 ○桑サヘ有ルナラ
 ○手入ガ届キテ
 ○鐵炮ナシヅヤ
 ○羈取者トハ
 ○外ルナシヅノ
 ○桑ノ葉費ヤシ
 ○詫ルガヨ力ロウ
 ○道橋普請ヤ
 ○天ノ御神ニ
 ○天ノ運ダノ
 ○詫ルト申シテ
 ○學校資本ヤ
 ○夫トモ知ラズニ
 ○其身ノ運ダノ
 ○良キ繭取タル
 ○泥ソブ居ナサル
 ○眼玉ノ出ル程
 ○功者コナックラ
 ○聞カザル人迄
 ○纏ヒ飼ノ仕方ガ
 ○右等ノ敷ヘコ
 ○ナシヅト唱ヘテ
 ○昔ハドツサリ
 ○病氣ハ無ツタ
 ○厚飼ナシヅモ
 ○社堂ノ寄附等
 ○外デハゴザラヌ
 ○罰金差上
 ○國損釀セシ
 ○國損釀セシ
 ○外ルニ過ク
 ○千兩ノ黃金ナ
 ○受ルモ同前
 ○必裸致シテ
 ○一方ニ
 ○馬鹿ナル者ラガ
 ○其理モ知ラズニ
 ○病氣ハ無ツタ
 ○厚飼ナシヅモ
 ○社堂ノ寄附等
 ○外デハゴザラヌ
 ○罰金差上
 ○國損釀セシ
 ○國損釀セシ
 ○外ルニ過ク
 ○千兩ノ黃金ナ

明治十三年一月

埼玉縣武藏國高麗郡廣瀬村
暢業社製絲場

